

令和4年

第6回教育委員会会議

議案第18号

秋田県教育委員会



議案第十八号

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則

県費負担教職員の定数を定める規則（昭和三十九年秋田県教育委員会規則第七号）の一部を次のように改正する。  
別表を次のように改める。

## 別表

市町村名	学校種別	定数				
		校長・教員	養護教員	栄養教諭及び 学校栄養職員	事務職員	計
鹿角市	小学校	91人	6人	1人	7人	105人
	中学校	68人	4人	2人	4人	78人
小坂町	小 "	12人	1人	1人	1人	15人
	中 "	14人	1人	0人	1人	16人
大館市	小 "	219人	17人	4人	18人	258人
	中 "	138人	9人	3人	10人	160人
北秋田市	小 "	108人	9人	2人	5人	124人
	中 "	64人	4人	1人	6人	75人
上小阿仁村	小 "	9人	1人	1人	1人	12人
	中 "	9人	0人	0人	0人	9人
能代市	小 "	119人	8人	3人	7人	137人
	中 "	97人	6人	1人	7人	111人
藤里町	小 "	12人	1人	1人	1人	15人
	中 "	13人	1人	0人	1人	15人
三種町	小 "	57人	5人	2人	3人	67人
	中 "	39人	3人	0人	4人	46人
八峰町	小 "	20人	2人	0人	2人	24人
	中 "	12人	1人	1人	1人	15人
秋田市	小 "	781人	44人	16人	43人	884人
	中 "	502人	20人	10人	21人	553人
男鹿市	小 "	71人	6人	1人	6人	84人
	中 "	49人	3人	2人	3人	57人
潟上市	小 "	92人	6人	2人	6人	106人
	中 "	63人	3人	1人	3人	70人
五城目町	小 "	23人	1人	1人	1人	26人
	中 "	15人	1人	0人	1人	17人
八郎潟町	小 "	11人	1人	1人	2人	15人
	中 "	11人	0人	0人	0人	11人
井川町	義務教育学校の 前期課程	13人	1人	1人	1人	16人
	義務教育学校の 後期課程	13人	0人	0人	0人	13人
大潟村	小 "	13人	1人	1人	1人	16人
	中 "	10人	1人	0人	1人	12人
由利本荘市	小 "	218人	14人	5人	14人	251人
	中 "	166人	10人	2人	11人	189人
にかほ市	小 "	63人	4人	3人	4人	74人
	中 "	50人	3人	1人	3人	57人
大仙市	小 "	269人	21人	3人	21人	314人
	中 "	171人	11人	4人	13人	199人
仙北市	小 "	81人	6人	0人	4人	91人
	中 "	68人	5人	2人	5人	80人
美郷町	小 "	52人	3人	2人	3人	60人
	中 "	29人	1人	0人	2人	32人
横手市	小 "	253人	14人	4人	15人	286人
	中 "	148人	8人	2人	7人	165人
湯沢市	小 "	115人	6人	2人	6人	129人
	中 "	97人	6人	1人	7人	111人
羽後町	小 "	52人	4人	1人	4人	61人
	中 "	27人	1人	0人	2人	30人
東成瀬村	小 "	12人	1人	0人	1人	14人
	中 "	12人	1人	1人	1人	15人

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

令和四年四月七日提出

秋田県教育委員会教育長 安 田 浩 幸

理 由

令和四年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。これが、この規則案を提出する理由である。

## 県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案要綱

### 1 改正理由

令和4年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。

### 2 改正内容

市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の県費負担教職員の定数を改めることとする。（別表関係）

### 3 施行期日

この規則は、公布の日から施行する。

令和4年

第6回教育委員会会議

議案第19号

秋田県教育委員会



議案第19号

令和4年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和38年法律第182号）第11条、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（昭和39年政令第14号）第9条、秋田県教科用図書選定審議会委員の定数を定める条例（昭和39年県条例第59号）の規定に基づき、次の者を令和4年度秋田県教科用図書選定審議会の委員に任命する。

	氏名	分野	任期
1	片岡 美由貴	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
2	高橋 晋	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
3	加藤 由美子	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
4	佐藤 和久	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
5	板垣 一恵	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
6	熊谷 留美子	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
7	石井 信恵	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
8	佐藤 玉緒	学校長等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
9	須田 喬	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
10	米澤 貴子	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
11	笹 美穂	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
12	堀井 淑子	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
13	桐原 悦子	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
14	住吉 聡子	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
15	中井 淳	教育委員会関係者	令和4年4月7日～令和4年8月31日
16	眞壁 聡子	学識経験者等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
17	藤井 慶博	学識経験者等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
18	松田 利枝子	学識経験者等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
19	藤井 祥子	学識経験者等	令和4年4月7日～令和4年8月31日
20	吉尾 恵美子	学識経験者等	令和4年4月7日～令和4年8月31日

令和4年4月7日 提出

秋田県教育委員会教育長 安田 浩 幸

理 由

令和4年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について、県教育委員会の議決を得る必要がある。これが、議案を提出する理由である。

令和4年度秋田県教科用図書選定審議会委員名簿  
(任期：令和4年4月7日から令和4年8月31日まで)

(令和4年4月1日現在)

	氏名	分野 (役職名等)	性別	地域	年齢	備考
1		以下、個人情報のため表示しません。				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

地域別			
地域	男	女	計
県北	2	4	6
中央	2	6	8
県南	1	5	6
計	5	15	20

※女性比率 75%

分野別			
分野	男	女	計
学校長等	2	6	8
教育委員会関係者	2	5	7
学識経験者等	1	4	5
計	5	15	20

年代別			
年代	男	女	計
30代	0	0	0
40代	0	1	1
50代	3	12	15
60代	2	2	4
計	5	15	20

※平均 56歳

令和4年

第6回教育委員会会議

報告事項

- (1) 令和4年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について
- (2) 令和5年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針
- (3) 令和5年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針
- (5) 令和4年3月 特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

秋田県教育委員会



報告事項（1）

令和4年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について

令和4年4月7日（木）

高 校 教 育 課

令和4年度 教諭等新採用状況

採 用 校 種	前々年度 前年度 採用延期者	R4 合格者	R4 辞退者 採用延期者	R4 採用者	備 考
小 教 学 校 諭	5	153	9	149	辞退4名（採用取消1名を含む） 大学院進学による採用延期4名 出産による採用延期1名
中 教 学 校 諭	1	94	3	92	辞退1名 大学院進学による採用延期1名 出産による採用延期1名
高 等 学 校 諭	0	17	0	17	
特 別 支 援 学 校 諭	0	22	0	22	
養 護 教 諭	0	21	2	19	辞退2名
栄 養 教 諭	0	1	0	1	
教 諭 計	6	308	14	300	
高 実 等 学 習 助 手	0	2	0	2	
特 別 支 援 学 校 実 習 助 手	0	2	0	2	
特 別 支 援 学 校 寄 宿 舎 指 導 員	0	2	0	2	
実 習 助 手 寄 宿 舎 指 導 員 計	0	6	0	6	
合 計	6	314	14	306	



## 報告事項（２）

### 令和５年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針

秋田県教育委員会

#### １ 基本方針について

- (1) 適性検査問題については、小学校学習指導要領（平成２９年文部科学省告示第６３号）に基づくものとする。
- (2) 適性検査問題等は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を把握できるように出題する。
- (3) 適性検査問題等の内容は、適性検査と作文とする。  
適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科、外国語（英語）の教科横断的な内容とし、検査時間は５０分とする。  
作文は、自分の考えや意見等を書くものとし、検査時間は４５分とする。

#### ２ 適性検査問題等の配慮事項について

適性検査と作文において、次の事項についての力がみられるように配慮する。

##### (1) 適性検査

- ア 聞いたり、読んだりしたことから、必要な情報を取り出し、その意味を理解する力
- イ 情報を自分の経験や教科で学んだことに関連付けて捉え、思考・判断する力
- ウ 目的に応じて、自分の考えや意見を表現する力

##### (2) 作文

自分の経験や見聞を基に、目的や意図に応じて、文章の構成や表現を工夫して書く力



## 報告事項（3）

### 令和5年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針

秋田県教育委員会

#### 1 基本方針

中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）に基づくものとする。

#### 2 実施教科、検査時間及び出題内容

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。

イ 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各60分、社会、理科は各50分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に10分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。

ウ 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

#### 3 各教科の配慮事項

各教科とも、次の各領域及び事項についての学力がみられるように配慮する。

##### (1) 国語

ア 話の構成や展開、話し手の意図などを考えながら聞く力

イ 目的や意図に応じ、自分の気持ちや考えを効果的に伝えるために、ある程度まとまった文章を書く力

ウ 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら、内容や要旨を的確に読み取る力

エ 各領域の学習に関連する、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字については、常用漢字を読む力と学年別漢字配当表に示されている漢字を書く力）

##### (2) 社会

ア 日本や世界の諸地域などの地理的事象について、自然及び社会的条件と関連させながら理解し、考察する力

イ 我が国の歴史的事象について、時代の動きや世界の歴史などと関連させながら理解し、考察する力

ウ 現代社会、経済と国民の生活、我が国の政治、国際社会の諸課題などに関する事項について理解し、考察する力

エ 地図や地球儀、統計、年表などの諸資料を活用して、社会的事象を様々な角度から判断し、表現する力

(3) 数 学

ア 数や式を的確に処理する力及び基本的な方程式や不等式を用いる力

イ 基本的な図形の性質についての理解及び図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力

ウ 具体的な事象について関数関係を見だし表現し考察する力

エ 不確定な事象について確率を用いて考察する力及び資料や母集団の傾向を読み取る力

オ 事象を数学的な見方や考え方に基づいて数理的に考察し表現する力

(4) 理 科

ア 自然の事物・現象を科学的に探究する過程を通して、その仕組みや働きを多面的、総合的に考察する力

イ 観察、実験で得られた事象や結果を分析して解釈し、表現する力

ウ 観察、実験の基本操作及び観察、実験の結果を的確に記録、整理するなどの技能に関する力

エ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、活用する力

(5) 外国語（英語）

ア 初歩的な英語を聞いて、その内容を聞き取り、適切に応答する力

イ 場面に応じて適切な英語を用い、自分の考えなどを表現する力

ウ まとまりのある英語の文章を読んで、その概要や要点、書き手の意向などを理解する力

報告事項(5)

令和4年3月特別支援学校高等部卒業者の就職内定状況について

令和4年3月31日現在  
特別支援教育課

1 特別支援学校高等部卒業者の進路内定状況

単位:人

卒業予定者数	進学等	就職	福祉施設等利用	無職等	備考
203	2	80	111	10	・福祉施設等利用の内訳: 障害児入所施設1、生活介護43、療養介護1、就労移行支援4、 就労継続支援A型5、就労継続支援B型55、福祉利用2、 ・無職等の内訳: 就労準備3、家事手伝い(自営業)1、デイサービス等の見学・体験1、 在宅5
割合	1.0%	39.4%	54.7%	4.9%	

2 就職者の内定状況

単位:人

学校・障害種別	学校数 <small>(含分校・分教室・附属)</small>	卒業者数	就職希望者数	内定者数 <small>(含内諾)</small>	備考
視覚支援学校(視覚障害)	1	3	3	1	
聴覚支援学校(聴覚障害)	1	3	0	0	
秋田きらり支援学校(肢体不自由)	1	14	3	3	
ゆり支援学校道川分教室(病弱)	1	0	0	0	
知的障害校(9校3分校) ※附属特別支援学校を含む	12	183	77	76	
計	16	203	83	80	就職内定率96.4%
卒業者数に占める割合			40.9%	39.4%	

3 就職内定先の業種等

業種等	人数	割合
製造業(縫製、電子部品等)	23	28.8%
医療・福祉(介護施設介護補助、保育補助、清掃、調理補助等)	20	25.0%
卸売業・小売業(飲食料品小売、衣料小売、自動車整備等)	17	21.3%
宿泊業・飲食サービス業(宿泊施設、飲食店、調理補助等)	4	5.0%
生活関連サービス業(クリーニング、ビルメンテナンス、リサイクル等)	4	5.0%
公務	4	5.0%
その他サービス業(産業用機械の洗浄や洗車)	3	3.8%
農業(農場・農園、農事組合法人)	3	3.8%
複合サービス	1	1.3%
運輸・郵便業	1	1.3%
計	80	

4 特別支援学校高等部卒業生進路先状況の年度別推移

単位:人

年度	卒業人数	進学	訓練機関	就職	施設等	無業・在宅	就職者の割合	知的障害校	
								就職者数	就職者割合
H22	179	9	2	41	107	20	22.9%	36	24.5%
H23	204	3	3	51	130	17	25.0%	45	25.7%
H24	198	5	0	58	117	18	29.3%	54	32.5%
H25	197	3	0	75	105	14	38.1%	68	38.9%
H26	199	4	0	83	100	12	41.7%	74	44.0%
H27	198	9	0	70	108	11	35.4%	66	39.3%
H28	223	1	0	70	146	6	31.4%	67	33.2%
H29	201	2	0	76	120	3	37.8%	65	37.8%
H30	196	0	0	74	118	4	37.8%	68	39.3%
R1	217	1	0	77	136	3	35.5%	74	37.4%
R2	199	4	2	74	109	10	37.2%	70	39.1%
R3	203	2	0	80	111	10	39.4%	76	41.5%

令和4年

第6回教育委員会会議

報告事項（4）

令和4年度秋田県公立高等学校入学者選抜一般選抜学力検査の抽出調査結果

秋田県教育委員会



令和4年度秋田県公立高等学校入学者選抜  
一般選抜学力検査の抽出調査結果

1 検査教科の平均点（受検者）

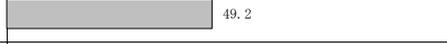
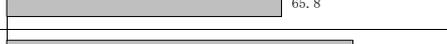
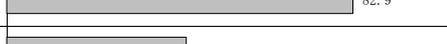
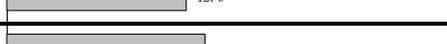
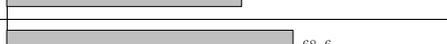
教科	令和4年度	令和3年度	前年度比較
国語	64.9	61.7	+3.2
社会	56.5	63.4	-6.9
数学	55.5	50.7	+4.8
理科	49.1	66.8	-17.7
英語	54.5	52.2	+2.3
合計点	280.5	294.8	-14.3
100点換算点	56.1	59.0	-2.9

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和4年度	64.9	56.5	55.5	49.1	54.5	280.5	56.1
令和3年度	61.7	63.4	50.7	66.8	52.2	294.8	59.0
令和2年度	58.6	57.2	51.5	57.0	58.0	282.3	56.5

# 国 語

## 1 小問別の完全正答率と得点率

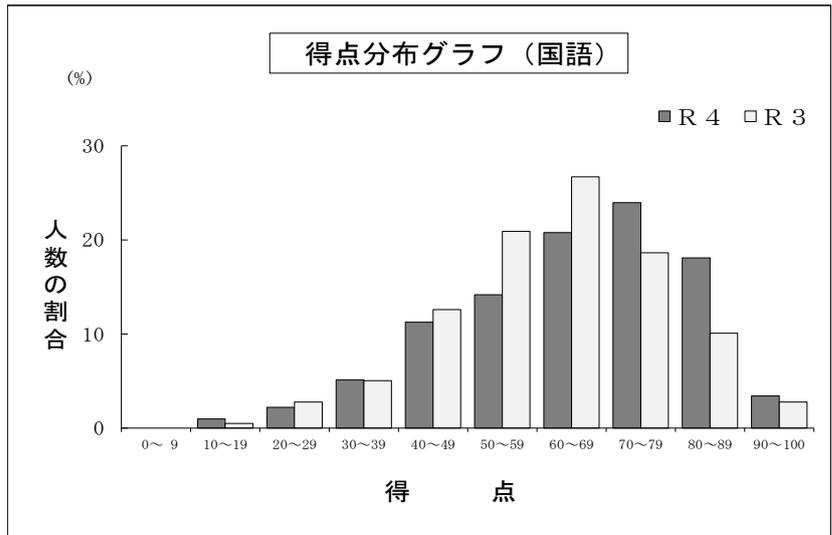
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	51.3												
	2	話合いの内容を正確に聞き取る	81.7												
	3	話合いの内容を正確に聞き取る	58.2												
	4	話合いの様子から、進行の仕方を考える	93.9												
二	1	本文の内容を捉える	49.1												
	2	本文の内容を捉える	78.2												
	3	a	本文の内容を捉える	82.2											
		b	本文の内容を捉える	80.4											
	(2)	本文の内容をまとめる	44.5												
	(3)	本文の内容を捉える	82.9												
	4	本文の内容をまとめる	24.0												
三	1	① 常用漢字を読む	47.4												
		② 配当漢字を書く	71.9												
		③ 常用漢字を読む	91.9												
		④ 配当漢字を書く	91.4												
	2	文節どうしの関係を捉える	47.9												
	3	動詞の活用の種類を書く	78.2												
	4	四字熟語の意味を捉える	50.4												
四	1	本文の内容を捉える	81.9												
	2	a	本文の内容を捉える	88.5											
		b	本文の内容を捉える	74.8											
	3	叙述から登場人物の心情を捉える	16.1												
	4	(1)	本文の内容を捉える	31.8											
		(2)	本文の内容を捉える	87.5											
(3)		叙述から登場人物の心情を捉える	6.4												
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	97.3												
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	80.4												
	2	主語を捉える	66.5												
	3	本文の内容を捉える	69.2												
	4	本文の内容をまとめる	47.9												
	5	(1)	本文の内容を捉える	53.1											
		(2)	本文の内容を捉える	68.2											
(3)		本文の内容をまとめる	25.4												
六	具体例を取り上げて、自分の考えを分かりやすく書く														

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

## 2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和4年度	令和3年度
90～100	3.4	2.8
80～ 89	18.1	10.1
70～ 79	24.0	18.6
60～ 69	20.8	26.7
50～ 59	14.2	20.9
40～ 49	11.2	12.6
30～ 39	5.1	5.0
20～ 29	2.2	2.8
10～ 19	1.0	0.5
0～ 9	0.0	0.0
計	100.0	100.0
平均点	64.9	61.7
標準偏差	16.8	15.4



## 3 現状の分析

平均点は64.9点と昨年を3.2点上回った。得点分布では、70点以上の層が増加しており、普段の学習の成果が表れた結果と言える。本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、発言の要点を整理したり、進行の仕方の特徴を捉えたりしながら、聞き取った内容を記述することができていた。
- ② 説明的な文章では、文章全体の論理の展開を捉えて主張を読み取ることはできていたが、理解したことを条件に応じて再構築してまとめることに課題が見られる。
- ③ 言葉の特徴や使い方に関する事項については、概ねできていたが、文節どうしの関係や四字熟語の意味を捉える設問については、一層の習熟が必要である。
- ④ 文学的な文章では、場面の展開や表現の効果を捉えることは概ねできていたが、描写を通して暗示的に表現されている登場人物の心情を読み取って記述することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、歴史的仮名遣いや主語を捉えることは身に付いていたが、本文に表れたものの見方や考え方を理解し、自分の言葉で表現することに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、表から読み取ったことを具体的に取り上げることはできていたが、読み取った内容から自分の考えを深めたり、文章の構成や展開を工夫したりすることに課題が見られる。

## 4 授業において取り組むべきこと

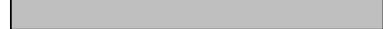
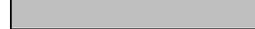
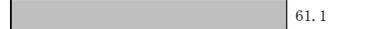
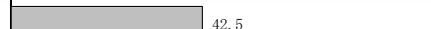
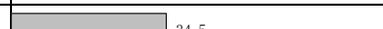
**【ポイント】**

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする学習の充実を図る。
- ・言葉を手掛かりにしながら、登場人物の言動の意味や暗示的に表現された心情を読み取り、自分の言葉で表現する学習の充実を図る。
- ・自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、文章の構成や展開を考えながら書く学習の充実を図る。
- ・言語感覚を磨き、語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 文章を読んで理解したことや考えたことについて、根拠を明確にして説明したり、自分の言葉に置き換えて文章にまとめたりする活動の充実を図りたい。
- ② 細部の描写に着目し、物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えながら、登場人物の言動の意味や心情を自分の言葉でまとめる活動の充実を図りたい。
- ③ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えるとともに、書いた文章を見直すことにより、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討する活動の充実を図りたい。
- ④ 社会生活で使う語彙を豊かにするために、語句の意味や使い方に対する認識を深め、状況に応じて適切に言葉を使い分けられるよう、言語活動の充実を図りたい。

# 社 会

## 1 小問別の完全正答率と得点率

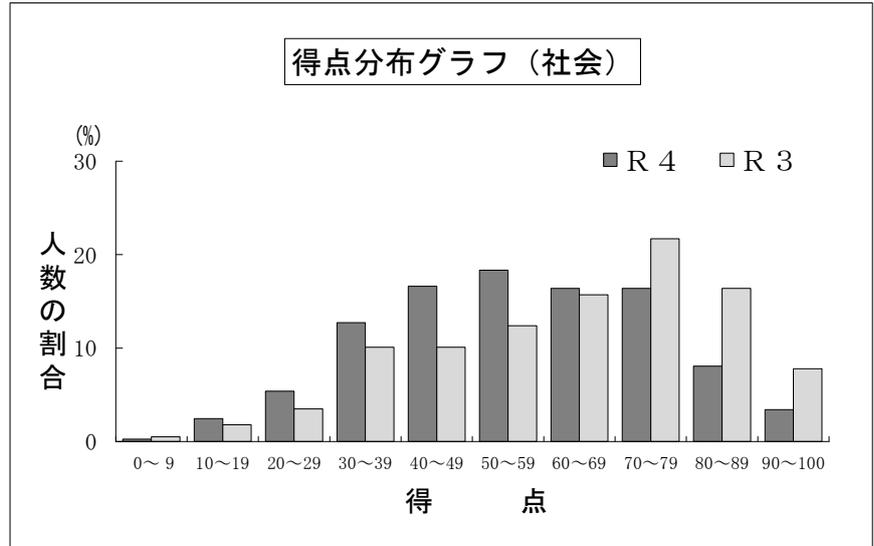
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)												
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100		
1	(1)	模式図中の海洋名を答え、その位置を地図から選択する	81.9	 82.5												
	(2)	模式図に示した位置の正反対にある州を地図から選択する	52.3	 52.3												
	(3)	ロンドンの気温の変化を示すものを雨温図から選択する	55.5	 55.5												
	(4)	各州の特色を表す資料を基に北アメリカ州を選択する	46.7	 46.7												
	(5)	農・鉱産物に関わる資料を基にあてはまる国を選択する	65.8	 65.8												
	(6)	インドの経済的な特色を複数の資料を基に説明する	36.4	 61.1												
2	(1)	地図に示された平野名を選択する	64.1	 64.1												
	(2)	①	川が流れる方角を地形図から読み取り選択する	61.9	 61.9											
		②	土地の高低と利用方法を地形図から読み取り説明する	71.4	 71.9											
	(3)	輸出に関わる資料を基に関西国際空港を選択する	53.8	 53.8												
	(4)	①	旅客輸送量に関わる資料を基に鉄道を選択する	50.9	 51.0											
②		我が国の国内貨物輸送の特色を複数の資料を基に説明する	33.3	 52.8												
3	(1)	①	十七条の憲法の特色を表す内容を資料を基に選択する	56.2	 56.2											
		②	武士の頭頭に関わるできごとを年代の古い順に並べ替える	48.7	 48.7											
		③	名称	帝国議会の議員構成に関わる資料を基に議院名を答える	44.0	 44.3										
			資格	第1回帝国議会の衆議院議員選挙の有権者資格を答える	40.6	 51.8										
	(2)	①	唐獅子図屏風が描かれた時代に活躍した人物を選択する	48.7	 48.7											
		②	大正時代に見られた生活様式の変化を選択する	57.7	 57.7											
	(3)	①	地図に示された国と我が国との交流の様子を選択する	16.1	 16.1											
		②	オランダ商館が出島に移された際の将軍名を答える	33.7	 34.4											
		③	日清修好条規と日朝修好条規の特色の違いを説明する	25.9	 37.9											
		④	江戸幕府の将軍の行動を年表から考察して説明する	24.7	 32.4											
		⑤	万博延期に関わるできごとを年表から考察して選択する	61.6	 61.6											
⑥		沖縄に関わるできごとを年表から考察して答える	57.5	 64.8												
4	(1)	①	労働三法から、労働時間の上限を定めた法律名を答える	64.8	 66.1											
		②	男女平等に関わる我が国の傾向を資料を基に説明する	39.4	 42.9											
		③	企業の行動計画策定の目的にあてはまる内容を選択する	66.5	 66.5											
	(2)	①	人や物、情報などの地球規模の移動を何というか答える	89.7	 90.2											
		②	為替相場の変動に関わる内容の組み合わせを選択する	51.8	 51.8											
		③	日本企業の海外進出に関わる変化を資料を基に選択する	76.5	 76.5											
		④	地方自治の充実に関わる収入項目を資料を基に選択する	68.2	 68.2											
		⑤	直接税の割合が高い国を資料を基に選択する	61.1	 61.1											
	(3)	①	身近な取り組みの目的を資料を基に選択する	74.1	 74.1											
		②	排他的経済水域において認められる権利を選択する	42.5	 42.5											
		③	東南アジア10か国が加盟している組織を選択する	82.6	 82.6											
		④	国際連合で採決された人権に関わる宣言を答える	34.5	 34.5											
		⑤	安全保障理事会の決議について資料を基に説明する	68.0	 71.6											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

## 2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和4年度	令和3年度
90～100	3.4	7.8
80～89	8.1	16.4
70～79	16.4	21.7
60～69	16.4	15.7
50～59	18.3	12.4
40～49	16.6	10.1
30～39	12.7	10.1
20～29	5.4	3.5
10～19	2.5	1.8
0～9	0.2	0.5
計	100.0	100.0
平均点	56.5	63.4
標準偏差	18.9	20.2



## 3 現状の分析

前年度に比べ、70点以上の層が減少し、平均点は6.9点低下した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、資料から必要な情報を読み取って、適切に判断したり、的確に説明したりすることに課題が見られた。

- ① 大問1(6)は、インドの経済的な特色について、複数の資料を比較し、関連付けて説明する問題である（完全正答率36.4%）。資料から読み取れることを基に、他の地域と比較した社会的事象の特色について考察し、適切に表現することに課題がある。
- ② 大問2(4)②は、国内の貨物輸送の特色について、自動車に着目し、複数の資料から読み取ったことを関連付けて説明する問題である（完全正答率33.3%）。資料から有用な情報を読み取り、指定された条件に従って適切に表現することに課題がある。
- ③ 大問3(3)④は、江戸幕府の将軍の行動について、年表から考察して説明する問題である（完全正答率24.7%）。習得した知識を活用して事象の意味や意義を多面的・多角的に考察し、適切に表現することに課題がある。
- ④ 大問4(1)②は、男女の年齢別賃金に関する我が国の傾向について、資料を基に説明する問題である（完全正答率39.4%）。資料から必要な情報を的確に読み取り、現代社会に見られる課題について考察し、適切に表現することに課題がある。

## 4 授業において取り組むべきこと

**【ポイント】**・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせて考察することができる学習活動を展開する。  
・資料から必要な情報を読み取り、それらを基に、社会的事象の特色や意味などについて比較や関連付けをしながら考察し、適切に表現する学習活動を展開する。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象を位置や分布などに着目して捉え、思考・判断したことを的確に説明する力を養うことが大切である。資料から読み取った事実や習得した知識及び技能を、比較したり関連付けたりして、地理的事象の特色や意味について多面的・多角的に考察し、表現する学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代ごとの政治や経済、社会の特色について多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を養うことが大切である。歴史的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けて考察したり、事象の意味を適切な用語を用いて表現したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、現代の社会的事象についての意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養うことが大切である。現代社会の見方・考え方を働かせながら、現代社会の諸問題の解決に向けて選択・判断する学習活動の一層の充実を図る必要がある。

# 数 学

## 1 小問別の完全正答率と得点率

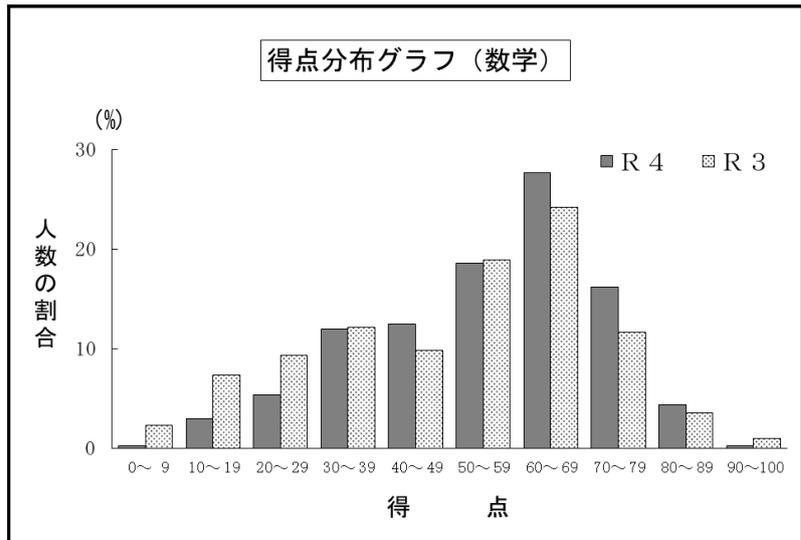
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											選択率 (%)	
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100		
1	(1)	正負の数を計算する	91.0												21.8	
	(2)	単項式を計算する	90.2												74.8	
	(3)	根号を含む式を計算する	71.8												66.7	
	(4)	無理数を選択する	64.4												22.0	
	(5)	連立方程式を解く	74.0												77.0	
	(6)	2次方程式を解く	73.7												57.7	
	(7)	反比例の式を求める	85.5												20.3	
	(8)	標本調査を基に個数を推定する	84.5												52.1	
	(9)	式の値を求める	64.9												64.1	
	(10)	条件を満たす自然数の個数を求める	9.7												45.2	
	(11)	線分の長さを求める	93.4												70.2	
	(12)	角の大きさを求める	71.1												81.2	
	(13)	展開図に線分をかき入れる	88.7												54.0	
	(14)	円錐の体積を求める	20.4												80.2	
	(15)	立体の体積を求める	7.7												12.7	
2	(1)	① 2元1次方程式のグラフをかく	47.2												69.9	
		② 1次関数のグラフに合う条件を選択する	78.2													
	(2)	① 線分の長さを求める	77.3													
		② 条件に合う座標を求める	4.9													
	(3)	条件を満たす作図をする	55.5													
(4)	条件を満たすグラフを選択する	52.3														
3	(1)	① 条件を満たす数を求める	74.8												30.1	
		② 条件を満たす値を求める	21.0													
		③ 条件を満たす数を文字式で表す	9.3													
	(2)	条件を満たす数を文字式で表す	28.1													
4	(1)	① 条件を満たす確率を求める	88.8													
		② 条件を満たす確率を求める	39.4													
	(2)	ヒストグラムから読み取れることを選択する	65.0													
5	I	(1) 三角形の相似を証明する	49.0												69.9	
		(2)	① 関係を正しく表しているものを選択する	73.8												
			② 図形の面積の比を求める	2.4												
	II	(1) 三角形の相似を証明する	38.2													
		(2)	① 角の関係で必ずいえるものを選択する	47.2												
			② 図形の面積の比を求める	0.0												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

## 2 得点分布 得点分布表（数学）

段階 \ 年度	令和4年度	令和3年度
90～100	0.2	1.0
80～89	4.4	3.5
70～79	16.1	11.6
60～69	27.6	24.2
50～59	18.6	18.9
40～49	12.5	9.8
30～39	12.0	12.1
20～29	5.4	9.3
10～19	2.9	7.3
0～9	0.2	2.3
計	100.0	100.0
平均点	55.5	50.7
標準偏差	17.0	20.4



## 3 現状の分析

- ① 大問1では、15問中11問で得点率が70%を超えており、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(10)条件を満たす自然数の個数を求めること、(14)円錐の体積を求めること、(15)立体の体積を求めることなど、複数の知識及び技能を活用して解決することについて課題が見られる。
- ② 大問2(1)①の2元1次方程式のグラフをかくことので得点率が47.7%であり、2元1次方程式を関数を表す式とみることについて課題が見られる。(2)②は、関数と図形の融合問題であった。変化や対応の特徴を捉え、数学的に考察することについて課題が見られる。
- ③ 大問3(1)②以降の設問の得点率が低く、事象に潜む数量の関係や法則などを文字を用いて式に表したり、その意味を読み取ったりすることについて課題が見られる。
- ④ 大問4(1)②の条件を満たす確率を求めることので得点率が54.7%であった。不確定な事象に関する問題解決において、確率を用いて説明することについて改善傾向が見られる。
- ⑤ 大問5は、三角形と円を組み合わせた問題であった。図形の基本的な性質や定理などを活用して、相似な三角形を基に面積比を考察することについて課題が見られる。

## 4 授業において取り組むべきこと

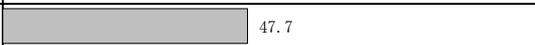
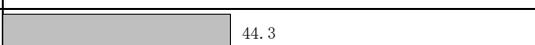
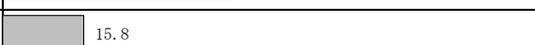
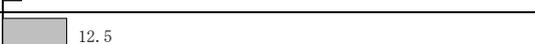
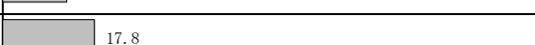
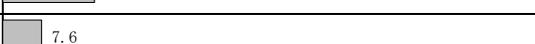
**【ポイント】** 次の3点を重視し、数学的活動を通してバランスよく指導する。

- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 統合的・発展的に考察する題材を用いた学習活動を充実させるために、学習内容の系統性を踏まえた単元計画や授業構想を工夫する必要がある。
- ② 「数と式」の領域では、用語の正しい理解と、計算することや方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問3のように、数量の関係や法則などを考察する問題では、日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決する活動の充実を図りたい。
- ③ 「図形」の領域では、大問5のように、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に説明し伝え合う活動の充実を図り、理解を深められるようにしたい。
- ④ 「関数」の領域では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、大問2(2)②のように、図形の性質を関連付けた問題を設定するなどし、論理的に考察する活動を大切にしたい。
- ⑤ 「データの活用」の領域では、大問4のように、不確定な事象の起こりやすさを確率を用いて考察する活動や、集団においてばらつきのある事象を、ヒストグラムや代表値を用いて考察する活動の充実を図りたい。

# 理 科

## 1 小問別の完全正答率と得点率

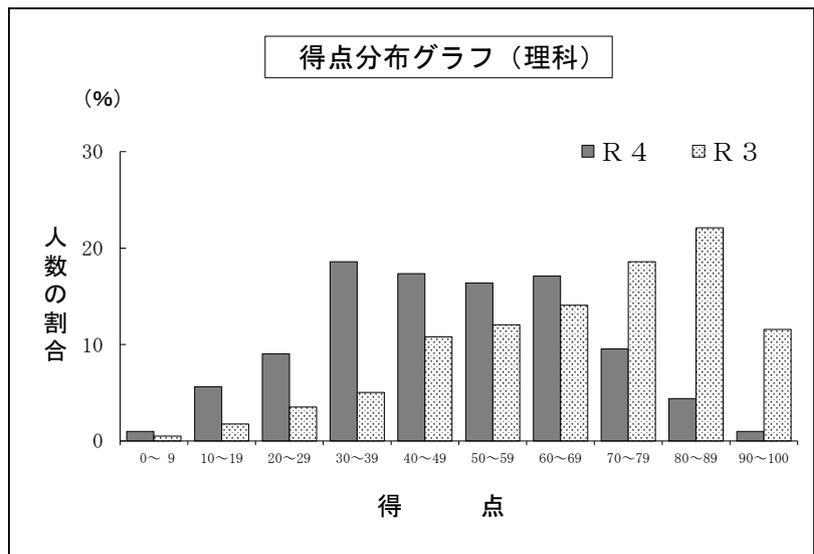
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	(1)	① 染色液の名称を答える	74.6											
		② 細胞壁の名称を答える	85.1											
		③ 体細胞分裂における染色体の数を選択する	47.7											
	(2)	① 光合成に必要な物質について説明する	72.6											
		② 葉緑体の名称を答える	87.8											
		③ 細胞の呼吸における酸素の役割を説明する	41.6											
2	(1)	名称 沸点の名称を答える	94.4											
		記号 純粋な物質が沸騰している間の状態を選択する	63.1											
	(2)	密度を用いて混合物の質量を求める	34.7											
	(3)	沸騰石の役割について説明する	71.4											
	(4)	① 密度の大小を答える	47.7											
		② 蒸留によって取り出された液体中のエタノールの割合について説明する	20.5											
3	(1)	① 1気圧の大きさを選択する	59.7											
		② 水蒸気の状態の変化について説明する	41.3											
	(2)	① 上昇気流のできる場所を選択する	33.5											
		② 天気図の記号を答える	55.0											
		③ 湿度から水蒸気量を求める	39.4											
		④ 雲のでき始める高さを説明する	15.6											
4	(1)	物体に働く重力を矢印で表す	58.2											
	(2)	弾性力の名称を答える	53.5											
	(3)	物体に働く浮力の大きさを求める	3.7											
	(4)	水圧の大きさの比を選択する	12.5											
	(5)	水中にある部分の体積と浮力の大きさの関係を説明する	17.1											
	(6)	浮力の大きさを適用して水に浮く物体の様子を説明する	7.6											
5	(1)	① 光の屈折の名称を答える	81.2											
		② 虚像ができる物体の位置を選択する	63.6											
		③ 望遠鏡による月の見え方を選択する	53.1											
	(2)	① 新月の位置を選択する	70.9											
		② 月の見え方について選択する	15.4											
6	(1)	① 双子葉類の特徴を選択する	74.6											
		② 無性生殖の特徴を説明する	56.5											
	(2)	① 熱分解の実験における操作を説明する	80.2											
		② 化学反応によって生じる物質の質量を求める	21.8											
		③ 炭酸水素ナトリウムがケーキを膨らませる理由を説明する	25.2											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

## 2 得点分布

得点分布表（理科）

年度 段階	令和4年度	令和3年度
90～100	1.0	11.6
80～89	4.4	21.9
70～79	9.5	18.4
60～69	17.1	14.1
50～59	16.4	12.1
40～49	17.4	10.8
30～39	18.6	5.0
20～29	9.0	3.5
10～19	5.6	1.8
0～9	1.0	0.8
計	100.0	100.0
平均点	49.1	66.8
標準偏差	19.1	20.8



## 3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、70点以上の割合が37.0ポイント減少し、40点未満の割合が23.1ポイント増加している。
- ② 観点別の完全正答率は、「知識・技能」が66.2%、「思考・判断・表現」が30.5%である。特に「知識・技能」のうち、用語を記述する問題及び科学的な概念を説明する問題の完全正答率がそれぞれ76.0%、71.4%であることから、授業において基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図られている結果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が67.5%、化学的領域が51.0%、地学的領域が41.4%、物理的領域は38.9%である。生物的領域の完全正答率が比較的高かった。
- ④ 大問4(4)の水圧の大きさの比を選択する問題では、完全正答率が12.5%である。物体に働く水圧の大きさと水の深さの関係を理解し、活用する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問6(2)③の炭酸水素ナトリウムがケーキを膨らませる理由を説明する問題では、完全正答率が25.2%である。炭酸水素ナトリウムがケーキを膨らませる要因について、実験の結果を基に考察し、表現する力が十分とは言えない。

## 4 授業において取り組むべきこと

### 【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・既習の知識や概念を活用し、課題の解決を図る学習過程を工夫する。
- ・獲得した知識や技能を基に、自然の事物・現象を捉え直す学習活動を工夫する。

- ① 大問3(2)④、大問4(4)のように、既習の知識や概念を活用し、課題の解決ができるようにするためには、主体的な学習活動の中で理科の見方・考え方を働かせることが必要である。その際、見通しをもって実験を計画させたり、根拠を示して表現させたりするなどの活動が、単元のつながりを生かした上で適切に位置付けられることが必要である。
- ② 大問2(4)②、大問6(2)③のように、獲得した知識や技能を基に、自然の事物・現象を捉え直すことができるようにするためには、探究の過程を振り返って課題に正対した考察をすることや自然の事物・現象を新たな視点で捉えることが必要である。その際、考察したことと課題で問われていることを照らし合わせる場面を設定することや、指導のねらいに応じて自然の事物・現象から次の課題を発見させる活動を取り入れることが大切である。

# 英 語

## 1 小問別の完全正答率と得点率

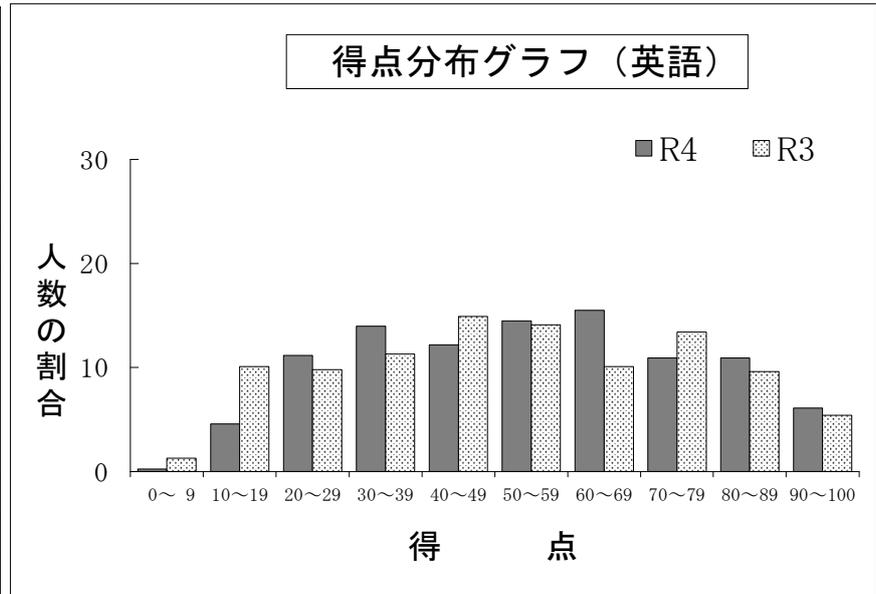
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	①	短い会話を聞いて要点を聞き取る	81.2											
		②	短い会話を聞いて要点を聞き取る	80.2											
	(2)	①	会話を聞いて適切に応答する	65.5											
		②	会話を聞いて適切に応答する	87.0											
		③	会話を聞いて適切に応答する	38.4											
	(3)	①	まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	55.0											
		②	まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	90.2											
		③	まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	87.8											
	(4)	記号	まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	74.8											
			まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	67.2											
	[答え]	[問い]に対する、自分の経験を英文2文で書く	20.0												
2	(1)	①	文脈に応じて語形を変化させる	75.8											
		②	文脈に応じて語形を変化させる	57.7											
		③	文脈に応じて語形を変化させる	79.0											
		④	文脈に応じて語形を変化させる	78.0											
	(2)	①	条件に合う単語を書く	66.5											
		②	条件に合う単語を書く	55.5											
		③	条件に合う単語を書く	45.7											
		④	条件に合う単語を書く	23.7											
	(3)	①	必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	32.0											
		②	必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	48.4											
③		必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	25.9												
3	(1)	①	内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	24.9											
		②	内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	20.3											
	(2)	自分の経験を英文にまとめる	12.2												
4	(1)	①	本文の概要を正確に読み取る	66.3											
		②	本文の概要を正確に読み取る	50.9											
	(2)	内容を読み取り、適切な単語を書く	75.8												
	(3)	内容を読み取り、適切な単語を書く	20.3												
	(4)	座席	内容を正確に読み取る	69.7											
理由		内容を正確に読み取る	6.6												
5	(1)	本文の内容を適切に表す語を読み取る	35.5												
	(2)	本文の内容を適切に読み取る	35.2												
	(3)	本文の要点を読み取る	28.9												
	(4)	本文の内容から語句の意味を捉える	70.4												
	(5)	本文の要点を正確に読み取る	53.8												
		本文の要点を正確に読み取る	63.6												
	(6)	①	本文の概要を正確に読み取る	64.5											
		②	本文の概要を正確に読み取る	44.3											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

## 2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和4年度	令和3年度
90～100	6.1	5.4
80～89	10.9	9.6
70～79	10.9	13.4
60～69	15.5	10.1
50～59	14.5	14.1
40～49	12.2	14.9
30～39	14.0	11.3
20～29	11.1	9.8
10～19	4.5	10.1
0～9	0.3	1.3
計	100.0	100.0
平均点	54.5	52.2
標準偏差	22.4	23.7



## 3 現状の分析

平均点は54.5点で前年度を2.3点上回った。得点分布グラフでは、前年度よりも10点～19点の得点層が減少し、60点～69点の得点層が増加した。リスニング問題の得点率はどの学力層でも高く、音声を中心とした指導の成果が見られる一方、複数の技能を統合して自分の考えを発信する問題や、必要な情報を取捨選択し論理的に思考して解答を導き出す問題に課題が見られた。

- ① 大問1(2)は、1回の放送から判断して解答する問題であり、完全正答率が平均63.6%であった。一方、(4)の質問に対する応答を求める問題は、完全正答率、得点率がそれぞれ20.0%、42.2%であり、質問を正しく聞き取り、基本的な語句を用いて自分の経験を表現する力に課題が見られた。
- ② 大問2(3)は、必要な2語を加え正しい語順で英文を完成させる問題であり、得点率は平均35.4%であった。過去時制の疑問文を用いて適切な英文を書く設問において課題が見られた。日頃の授業において、身近な話題に関するやり取りをする場面の充実を図っていくことが求められる。
- ③ 大問3は、授業における生徒とALTとのやり取りを読み、その内容に英語で答える問題である。時間の長さを英語で適切に答える設問の完全正答率は20.3%であった。まとまりのある英文の内容を正確に読み取り、適切な言語材料を用いて表現することに課題が見られた。
- ④ 大問4(4)は、代名詞thatが示す内容を適切に読み取る問題であるが、完全正答率が6.6%、得点率が16.1%であった。普段見慣れない語句であっても、場面や状況等から意味を推測するといった、実際のコミュニケーションに必要な力を身に付けさせていくことが求められる。
- ⑤ 大問5(5)は、本文の要点を読み取る問題であり、完全正答率は平均58.7%であった。一方、(2)、(3)は本文の内容を問う問題であり、それぞれ35.2%、28.9%であった。本文中の事実は読み取れているが、それらの関連性などの詳細を読み取り表現することに課題が見られた。

## 4 授業において取り組むべきこと

**【ポイント】**・目的や場面、状況等を明確にした言語活動の中で基本的な語彙と文法事項を繰り返し指導するとともに、効果的なフィードバック等を通して定着を図る。  
 ・幅広い資料や題材を活用して、生徒の興味・関心を高めるとともに、複数の領域を統合した言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。

- ① 具体的な場面や状況等を想定した言語活動の中で、基本的な語彙や文法事項などの言語材料を繰り返し活用させることで、それらの定着を図る必要がある。言語使用等に関して、活動中のフィードバックや、活動後の振り返りを通して、正確さや適切さを高めていくことが重要である。
- ② 日常的な話題や社会的な話題について聞いたり読んだりしたことを基に、考えや気持ちなどを他者と伝え合うなど、複数の領域を統合させた言語活動を行うことが一層求められる。その際、情報を整理しながら考えを形成し、適切な表現を用いて伝え合う機会を充実させることが大切である。